

生成AIとは



ChatGPT等の対話型生成AIは、あたかも人間と自然に会話しているような応対で、文書作成や翻訳等の素案を作成することができます。

たくさんのデータをもとに、本当らしい答えを作り出すことが得意ですが、間違った答えを合っているかのように答えることがあります。



生成AI利用の目的について

- ・学ぶことの意義について理解を深める
- ・個々の情報の意味を理解し、問題の本質を問うこと
- ・単なる個別の知識の集積ではない深い意味理解を促すために生成AIについて学ぶことは必要不可欠です。

生成AIが出したものは参考として捉え、最後は自らで判断し、責任を持つことが大切です。

また、生成AIに対する理解に併せて、情報モラルなどの情報活用能力の育成を充実させることが必要です。

入力してはいけない内容

- ・氏名・生年月日・住所・健康状態など
個人に関する情報
- ・人の生命・身体・犯罪の予防等に支障が生じる恐れがあるもの
- ・第三者が著作権を所有しているデータ（他人が作成した文）

【2】使用について

入力した情報はAIが学習し、検索対象になる場合があります。
上記の内容は決して入力しないでください。

利用について

生成AIの利用規約の中に年齢制限等の記述があります。

【1-（2）対象とする範囲】
(例)

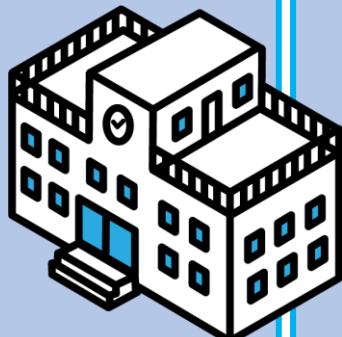
- ・Gemini (Google社・13歳以上)
- ・Copilot (Microsoft・13歳以上)
- ・Chat GPT (OpenAI・13歳以上) ログイン不可

※利用にあたって、年齢制限以外にも学習されるデータ等注意が必要です。**必ず利用規約を確認してください。**

※小学生でも利用できる生成AIソフトがあります。児童1人1人が利用する場合は、生成AIの特性を十分理解した上で利用させてください。

Step1 校務での使用

- ・教師自身が新たな技術に慣れ親しむ。
- ・生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用する。



あくまで「たたき台」としての利用
※必ず作成者の意図が盛り込まれる
ようにすること

- ①児童生徒の指導に関わる業務の支援
 - ・教材のたたき台
 - ・練習問題のたたき台
- ②学校行事への支援
 - ・校外学習等の行程作成のたたき台
 - ・定型的な文書のたたき台
- ③学校運営に関わる業務の支援
 - ・報告書のたたき台
 - ・あいさつ文や式辞等の原稿のたたき台
- ④外部対応への支援
 - ・保護者向けのお知らせ文書のたたき台

【3生成AIの活用方策（校務）】



Step2 学習指導での使用

- ・生成AIを事態を学ぶ場面
- ・使い方を学ぶ場面
- ・各教科等の学びにおいて
積極的に用いる場面

往還しながら

活用するにあたり、情報モラル教育の一環として、教師は生成AIが生成する誤りを含む回答を教材として使用し、その性質や限界等を児童生徒に気づかせるなど、まずは理解させることが必要です。生成AIの活用により教育的効果が見込まれると想定される具体例

- 英会話の相手として活用したり、より自然な英語表現への改善や一人一人の興味関心に応じた単語リストや例文リストを作成したりすることに活用させる。

【4生成AIの活用方策（学習）】